

月山富田城とは

月山富田城跡は標高190mの月山を中心に、飯梨川(旧名:富田川)に向って馬蹄形に伸びる丘陵上に多数の防御施設を配した広大な山城です。戦国大名尼子氏歴代の居城として栄え、尼子氏が毛利氏の攻撃を受けて滅亡した後には毛利氏の山陰地方支配の拠点となりました。さらに吉川広家が城主となって以後は、主要な箇所石垣を築き、瓦葺きの櫓や土塀を建てるなど、中世城郭から近世城郭へと大きく変貌し、その後城主となった堀尾氏が松江城を築城して本拠を移すまで、出雲国の中枢として繁栄しました。

昭和9年(1934)にはその歴史的価値が認められて国の史跡に指定され、さらに平成18年(2006)に日本100名城、平成30年(2018)に日本遺産「出雲國たたら風土記」の構成文化財にも選定されています。



月山富田城跡関係略年表

時代	城主(城代)	年代	主な出来事
中世 室町 戦国	尼子清貞	応仁元(1467)	応仁・文明の乱が勃発し、戦火が全国に波及。
		応仁2(1468)	安来庄十神山城主松田備前守が富田庄を侵略。
		文明8(1476)	能義郡国一揆おこり、一揆勢が富田城を攻める。
		文明16(1484)	尼子清貞、経久親子が守護代を解任される。
	尼子経久	享禄3(1530)	経久の三男、興久が反乱を起こす。(塩冶興久の乱)
		天文9(1540)	尼子詮久(晴久)が吉田郡山城の毛利元就を攻める。
	尼子晴久	天文12(1543)	大内義隆が出雲に侵攻するが敗走。(第一次月山富田城の戦い)
		天文21(1552)	尼子晴久が山陰山陽八ヶ国の守護に任命される。
	尼子義久	天文23(1554)	晴久、叔父である国久ら新宮党を肅清する。
		弘治2(1556)	晴久、石見銀山を奪取する。
天野隆重	永禄8(1565)	毛利元就が富田城を包囲。(第二次月山富田城の戦い)	
	永禄9(1566)	尼子義久富田城を開城する。	
安土桃山	毛利元秋	永禄13(1570)	布部・山佐合戦で尼子軍敗北。毛利元秋が富田城主となる。
		天正6(1578)	播磨国上月城が落城し、尼子勝久は自刃。鹿介は備中で暗殺される。
	天正10(1582)	本能寺の変おこる。	
近世 江戸	毛利元康	天正13(1585)	元秋の急死により、弟の毛利元康が富田城主となる。
		天正18(1590)	豊臣秀吉が全国を統一する。
	吉川広家	天正19(1591)	吉川広家富田城に入城する。
		文禄元(1592)	文禄・慶長の役おこる。広家も朝鮮に出陣。
堀尾忠氏	慶長5(1600)	関ヶ原の戦いおこる。戦後に吉川広家にかわり堀尾吉晴、忠氏が富田城に入城。	
	慶長8(1603)	徳川家康が征夷大将軍に任ぜられる。	
	慶長9(1604)	8月、忠氏が急逝し、吉晴が政務に復帰。	
堀尾忠晴	慶長13(1608)	堀尾吉晴が松江城を築き居城を移す。	
	元和元(1615)	一国一城令が発布される。(このころ富田城は廃城か?)	

あわせて行きたい! 周辺の名城



松江城(鳥根県松江市)

富田城に替わる領国支配の拠点として堀尾吉晴によって築城され、慶長16年(1611)に完成しました。天守は4重5階建ての重厚な造りの望楼型天守で、千鳥が羽を広げた姿に見えることから、別名「千鳥城」とも呼ばれています。平成27年(2015)には国宝に指定されました。



米子城跡(鳥取県米子市)

天正19年(1591)に富田城主となった吉川広家が築城を始め、広家の周防国岩国への転封に伴い新領主となった中村一忠によって完成されたと伝わります。標高90mの淡山の山頂に、大小2つの天守が並立する優美な城郭でしたが、明治維新後の明治12年(1879)に天守は売却されて解体されました。山頂からは日本海や中海、鳥根半島、大山が一望できます。

ACCESS



- 飛行機 | 米子空港～車で約1時間
- 電車 | 出雲空港～車で約1時間30分
- 自動車 | JR山陰本線安来駅～バスで約30分
- 自動車 | 山陰道安来I.C.～約20分

観光についての問い合わせ先

安来市観光協会 (JR安来駅隣接、観光交流プラザ内)

〒692-0011 鳥根県安来市安来町2093-3
TEL 0854-23-7667 E-mail mail@yasugi-kankou.jp

安来市立歴史資料館

〒692-0402
鳥根県安来市広瀬町町帳752
TEL 0854-32-2767

- 入館料 | <一般> 210円 <高・大生> 100円 <小・中学生> 30円
- 開館時間 | 午前9:30～午後5:00
- 休館日 | 毎週火曜日(火曜祝日の場合は翌日) 12月29日～1月3日

月山富田城跡

戦国時代を代表する難攻不落の山城

月山富田城跡

大内、毛利氏の猛攻を耐え抜いた
天下の堅城

イ. 月山山頂部



急峻な月山の山頂に本丸、二ノ丸、三ノ丸などの大きな曲輪が連なっています。ここからの眺望はすばらしく、中海、島根半島、弓浜半島といった、当時の交通・経済・軍事の面で重要な地域が一望できます。

ロ. 山中御殿平



月山山腹にある、城主の居館があったとみられる場所で、周囲を石垣に囲まれた広大な曲輪です。

ハ. 花ノ壇



発掘調査で見つかった二棟の建物跡について、休憩施設として復元的整備を行い公開しています。

ニ. 太鼓壇



太鼓壇は当時、時を知らせる太鼓櫓があった場所と伝わっています。現在は尼子家再興のために尽力した山中鹿介幸盛の銅像が建立されています。

ホ. 千畳平



最も城下に面している曲輪の一つで、斜面には張り出しを持つ大規模な石垣が築かれています。周辺から鯰瓦や鬼瓦を含む大量の瓦が出土していることから、張り出しの上には櫓が建てられていたと考えられます。

ヘ. 堀尾吉晴の墓



堀尾吉晴は尾張国(愛知県)出身の武将で、慶長5年(1600)に出雲・隠岐の領主となった子の忠氏と共に富田城へ入城しました。新たな居城として松江城を築くなどの業績を残した後、没後は巖倉寺の境内に埋葬されました。



ト. 富田川河床遺跡



富田城の城下町は富田城の廃城後も存続していましたが、寛文6年(1666)の大雨による洪水で河底に埋没しました。昭和49年(1974)以降数次にわたる発掘調査が行われ、建物や道路などの遺構の他、多数の生活遺物が出土し、城下町の繁栄ぶりを窺うことができます。

凡例	歩道	車道	石垣
曲輪跡	トイレ	バス停	駐車場